

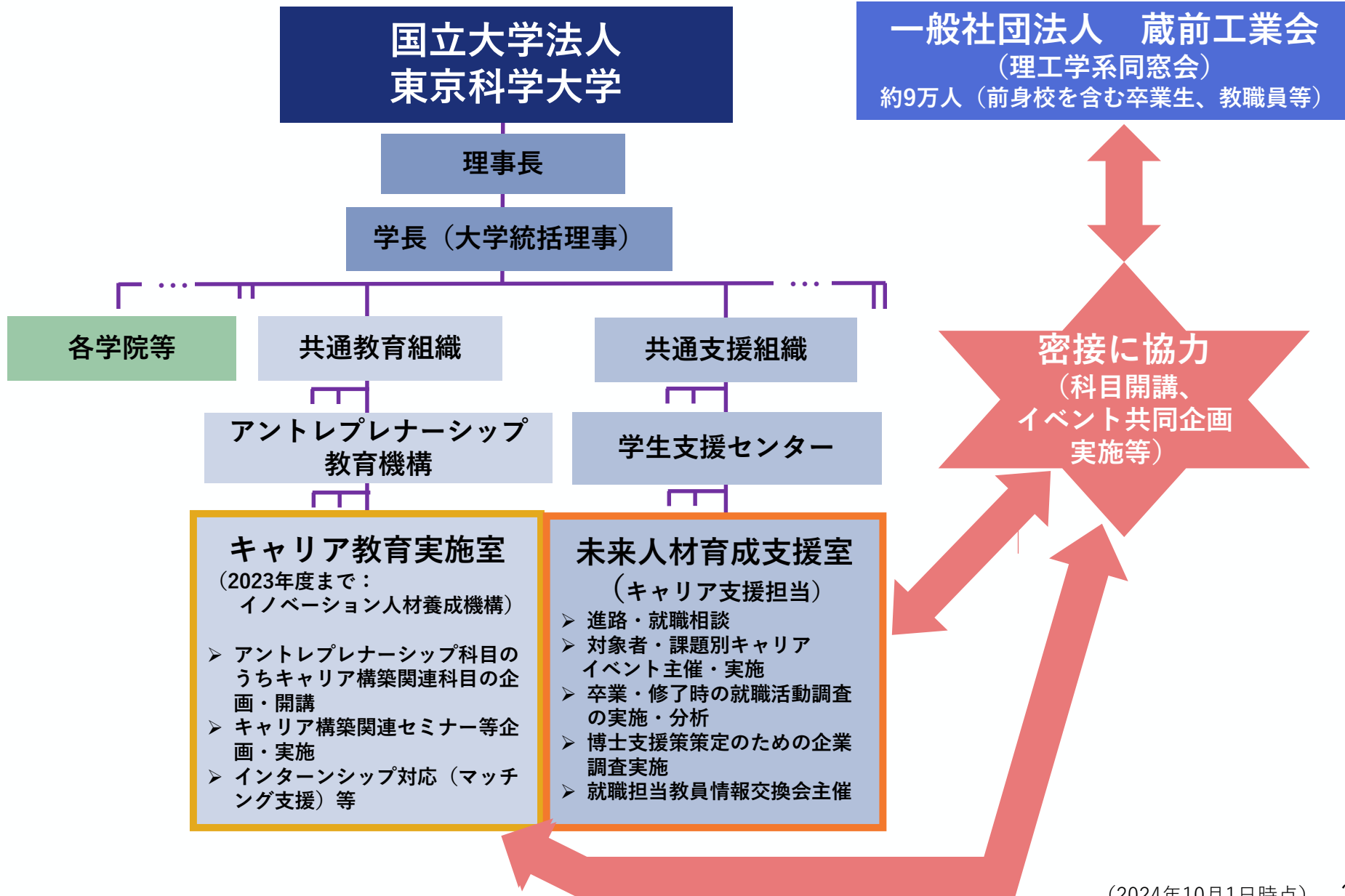
東京科学大学における 博士後期課程学生に対する キャリア支援／キャリア教育

国立大学法人 東京科学大学

一般社団法人 蔵前工業会

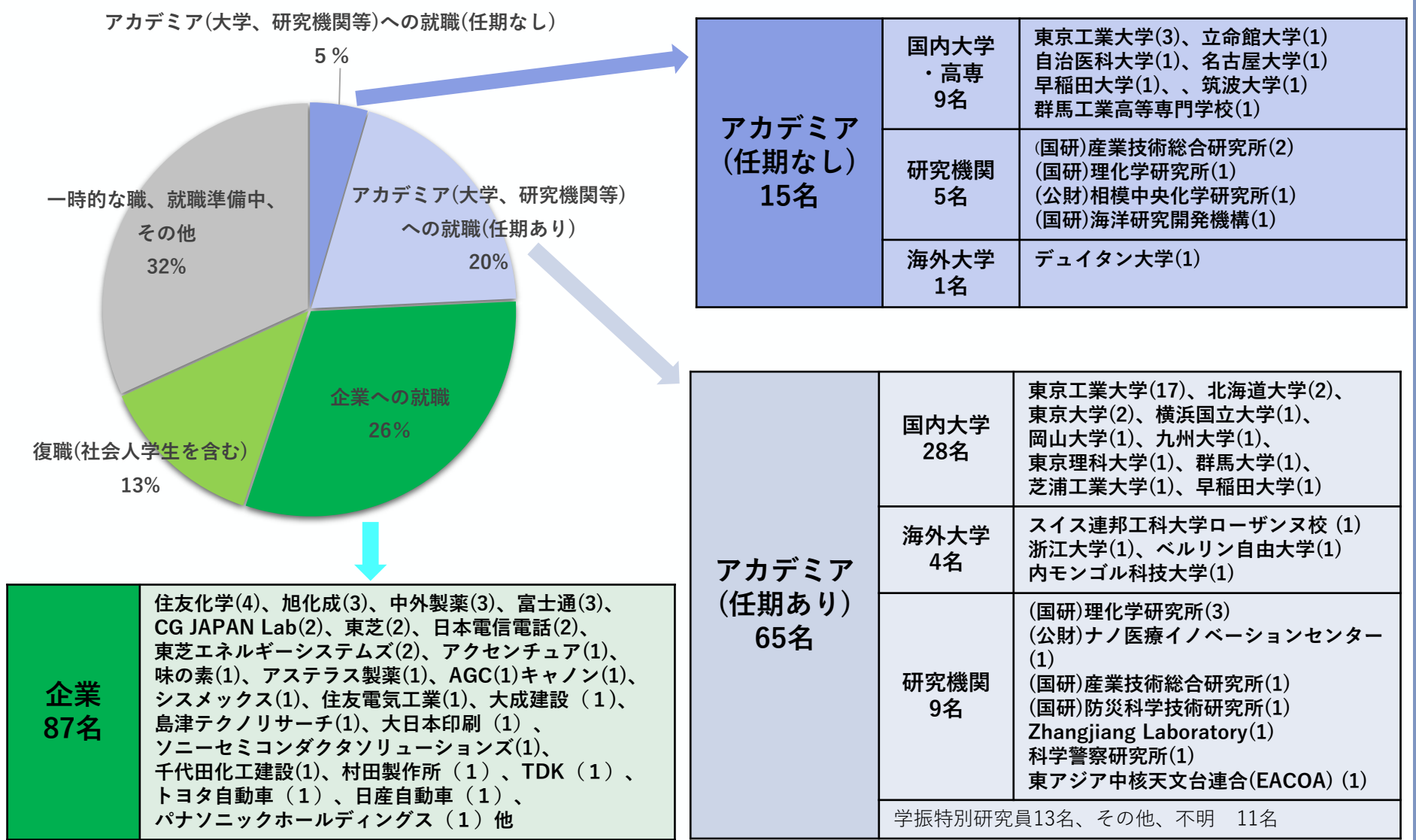


- 博士後期課程学生に対するキャリア支援／キャリア教育の体制：P.3
- 博士後期課程学生の在籍／進路の状況：P.4～5
- 博士後期課程学生に対するキャリア支援とスケジュール：P.6～7
- 大学のキャリアアドバイザーによる博士後期課程学生に対するキャリア相談：P.8～9
- 蔵前工業会（理工学系同窓会）によるキャリア支援：P.10～13
- Dr's K-meet 博士後期課程学生のための蔵前就職情報交換の集い/ポスターセッション：P.14～15
- キャリア教育の取り組みとアントレプレナーシップ教育への発展：P.16～21
- 参考：博士後期課程修了者の就職状況調査（2024年3月）：P.22～26



(単位：名)

	1 年次	2年次	3年次	合計
学生数	497	401	757	1,655
(うち留学生)	(240)	(206)	(314)	(760)



■進路・就職相談窓口

- 専攻・系の就職担当教員（専門分野に関連した就職についての情報の中心）
- キャリアアドバイザールーム（専任のキャリアアドバイザーによる個別相談）
- 蔵前工業会所属のくらまえアドバイザーによる個別相談

■ガイダンス

- インターンシップガイダンス（インターンシップの位置づけや参加に関する説明会（5月））
- 夏休みキャリアガイダンス（就職活動の詳細情報や内定者の体験談を提供する説明会（9月））
- 就職活動対策講座（エントリーシート（ES）＆面接対策（12月）等）
- 留学生就職ガイダンス（全編英語での実施（11月））

■企業とのマッチングイベント（蔵前工業会主催）

- K-seek（5月）（インターンシップ企業説明会/業界勉強会）
- Dr's K-meet（9月）（博士後期課程学生・ポスドクのみを対象にした合同企業説明会）
- K-find（11月）（企業研究のための合同説明会）
- K-meet（3月）（合同企業説明会）

■その他

- 博士向け中長期インターンシップ
- 日本学術振興会 特別研究員
- JREC-IN Portal

博士後期学生向けキャリア支援 年間スケジュール

Institute of
SCIENCE TOKYO

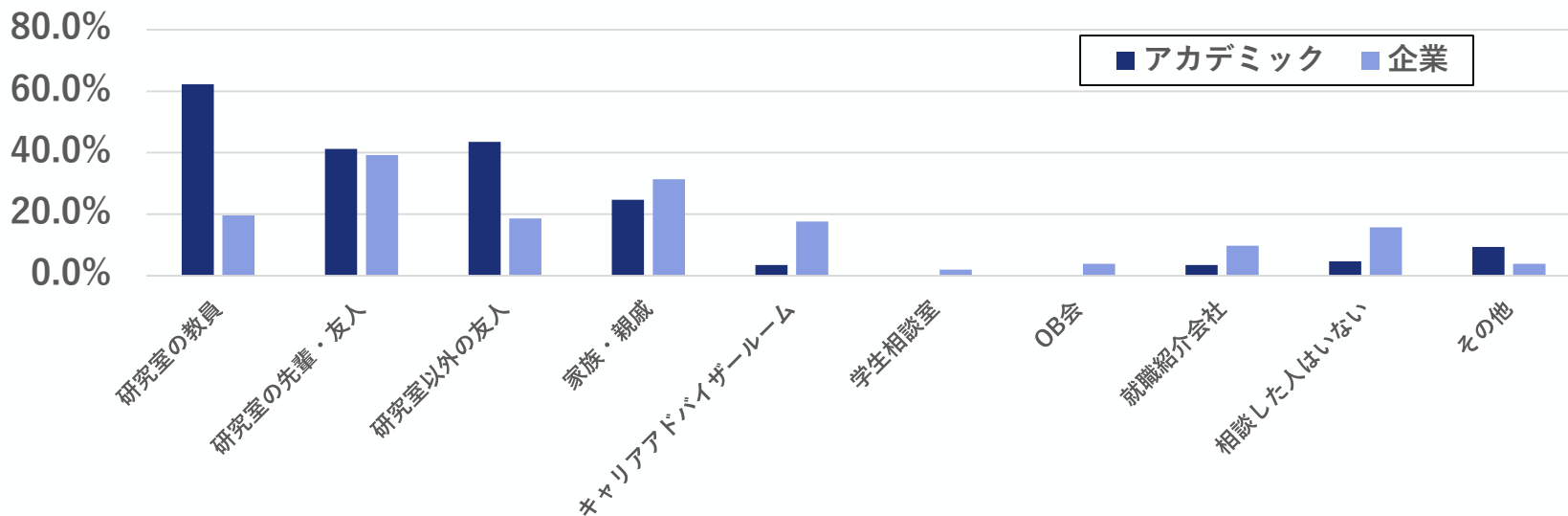
2024年度キャリア支援ガイダンス・イベント		実施方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	国家公務員総合職2次試験・官庁訪問対策講座 ※2	オンライン	17											
2	インターンシップガイダンス ※2 ：インターンシップとは何か、インターンシップの効果的な活用方法を解説	オンライン		8										
3	K-seek インターンシップ企業説明会（蔵前工業会）NEW ※1 ：業界研究の仕方を理解。インターンシップについて企業からの説明	オンライン		11										
4	中長期インターンシップ説明・情報交換会 ※2 ：研究型インターンシップ（2週間以上）実施企業との交流会	オンライン		29										
5	就職活動再点検講座（最終学年） ※2 ：この時点での無内定者に対して、就活の巻き返し方法を解説	オンライン		29	12									
6	夏休みキャリアガイダンス ※2 ：就職内定者の体験談、秋以降の就職活動スケジュールと実施方法を解説	オンライン						10－13						
7	修学大学院新入生ガイダンス（修学） ※2 ：4月、9月入学の学生対象 東工大のキャリアを説明（日本語・英語）	オンライン						26、28						★
8	Dr's K-meet/ポスターセッション（蔵前工業会） ※1 ：博士後期課程学生とポスドク専用企業説明会/自研究の企業向けポスターセッション	対面						25－26						
9	留学生就職ガイダンス(英語で開催) ※2 ：留学生を対象として日本での就職についてのスケジュール、考え方を解説	オンライン							30					
10	外資系企業と留学生の交流会「Career Discovery」 ：英語の得意な日本人も参加可	オンライン								11				
11	K-find（蔵前企業研究会） ※1 ：企業が直接、企業のことやキャリアについて説明	対面								5－7				
12	博士のための自己アピールワークショップ（日・英） ※2 ：企業に伝える、博士学生としての効果的な自己アピールについて学ぶ	オンライン									5、10			
13	就職対策講座（①企業研究、自己分析、ES・②面接） ※2 ：具体的な就活でのスキル指導	オンライン									11	17		
14	キャリアとしての国家公務員 ※2 ：国家公務員の試験概要や業務内容について、現役公務員から説明	オンライン									18			
15	外資系企業交流会 ※2 ：JETROとの共催、外資系企業担当者との直接交流を通して外資系企業について理解	対面										15		
16	独法、国研等業務説明会 ※2 ：東工大生人気上位独法等による合同業務説明会	対面										29		
17	博士キャリアサポートセミナー ※2 ：博士留学生を対象として日本での就職について説明、希望者には模擬就職面接を実施	オンライン											★	
18	蔵前就職情報交換の集い（K-meet） ※1 ：東工大生を採用する企業を招いて行う合同説明会	対面												4－6
19	キャリアに関するオンライン何でも相談会 ※2 ：キャリアアドバイザーがその場で回答	オンライン	●	●	●									
20	テーマ・対象者別的小セミナー ※1 ：ex:留学生、ES・面接、グループディスカッション等	対面・オンライン												
※1：蔵前工業会主催 大学共催 ※2：大学主催 ★は今後、日程を決定														

大学キャリアアドバイザーによる 博士後期課程学生に対するキャリア相談

■4人のキャリアアドバイザーが交代で週5日、全学学生を対象とした個別相談を実施（英語での相談も実施）

- 年間相談件数：約3,000件（2023年度）、うち博士学生は5 %程度
- アカデミアの相談に関しては、研究室の先生等が主。
- キャリア相談の内容は民間・公務員就職に関するものが多い。

就職活動について相談した相手（複数選択可）



大学キャリアアドバイザーによる キャリア相談を実施した博士学生の声

【アカデミア就職】

- 自分の研究に悲観的になることがあるかもしれないが、自信を持って学会などで自分の研究成果について発表していると、それを見ていた先生から声をかけてもらって次のキャリアに繋がることもある。そのため、まず自分の研究に自信を持つことが大事。
- アカデミアは極めて待遇が悪い（求める能力の割に給料が低く、任期付である）ため、その道に進むことを検討している場合は、本当にそれでよいのかよく考える必要あり。

【企業就職】

- 博士後期課程の学生は研究をすることが仕事。研究が上手いかなければ就活も厳しい戦いになる。
- 博士後期課程への進学に対するイメージは、この3年間で改善されてきているなど感じる。入学前は、博士後期課程に良いイメージを持っている方はあまり多くなかったが、社会の受け入れがだんだんと変わってきて、悪いイメージがなくなっていると感じている。特に就活の時も面接などで変な質問をされることはなく、結果的に内定ももらえた。
- 研究室の修士学生（現M2）と同時期に就活をおこなうにあたり、博士就活の厳しさを感じた。博士就活では想像以上に修士、学士就活におけるポテンシャル採用が通用せず、加えて私の専門分野としての需要の少なさ、他分野にはない強み・技能の少なさもあったので、博士後期課程への進学が就職の選択肢を狭めたように感じた。

仕事の第一線を
卒業
した同窓生

長くキャリアを歩んだ先輩ならではの理工系職業
キャリアの知恵を伝授

就職支援（Dr's k-meet開催、キャリア相談など）

若者と触れ合う機会、母校への貢献の機会

現役学生

<Win-Win>

Win-Winを支える日々の仕組みづくり

- ・ 同窓会事務局が大学構内にある。
- ・ 歴代学長、現理事長をはじめ教職員が同窓会イベントに積極的に参加する。
- ・ キャリア支援、学生支援の様々な場面で大学から同窓会に協力をお願いする（有償、無償）。同窓会から大学への協力依頼もある。
 - キャリア教育授業の特別講師（ロールモデルの提示）
 - 新入生ガイダンスの講師
 - イベントの共催、同窓会イベントへの学生の参画 など
- ・ これらの協業をささえる卒業生人材プールが同窓会内に組織されている。
 - ・ くらまえアドバイザー（約30名）、蔵前学修コンシェルジュ（5名）
 - ・ いずれのメンバーも、ITの親和性、プロジェクト管理経験豊富。
 - ・ 博士号を持つメンバーも複数含まれる。
- ・ 情報交換のため、大学の定例会議に同窓会メンバーが参加し、同窓会の定例会議に大学メンバーが参加する。
- ・ k-meet交流会では、企業から参加する若手同窓生と現役学生が交流する。

■全学同窓会による就職イベントの開催経緯

従来学科別（機械系・電気系）で実施していた学生と企業を結ぶ就職イベント活動を、2013年大学との協議のもと全学を対象に広げ、第1回蔵前就職情報交換の集い（K-meet）を開催した。その後、大学との共催で、博士後期課程学生のための蔵前就職情報交換の集い（Dr's K-meet）、蔵前企業研究会（K-find）、インターンシップ企業研究会（K-seek）等幅を広げ現在に至る。

■K-meet企業データベース（約750社登録）

K-meet推進委員会の審査を経て登録された企業の担当者・連絡先等のデータベースを定期的にメンテナンスし、各種就職イベントの参加案内の送付や、各種調査を行い、結果を就活支援に活用している。

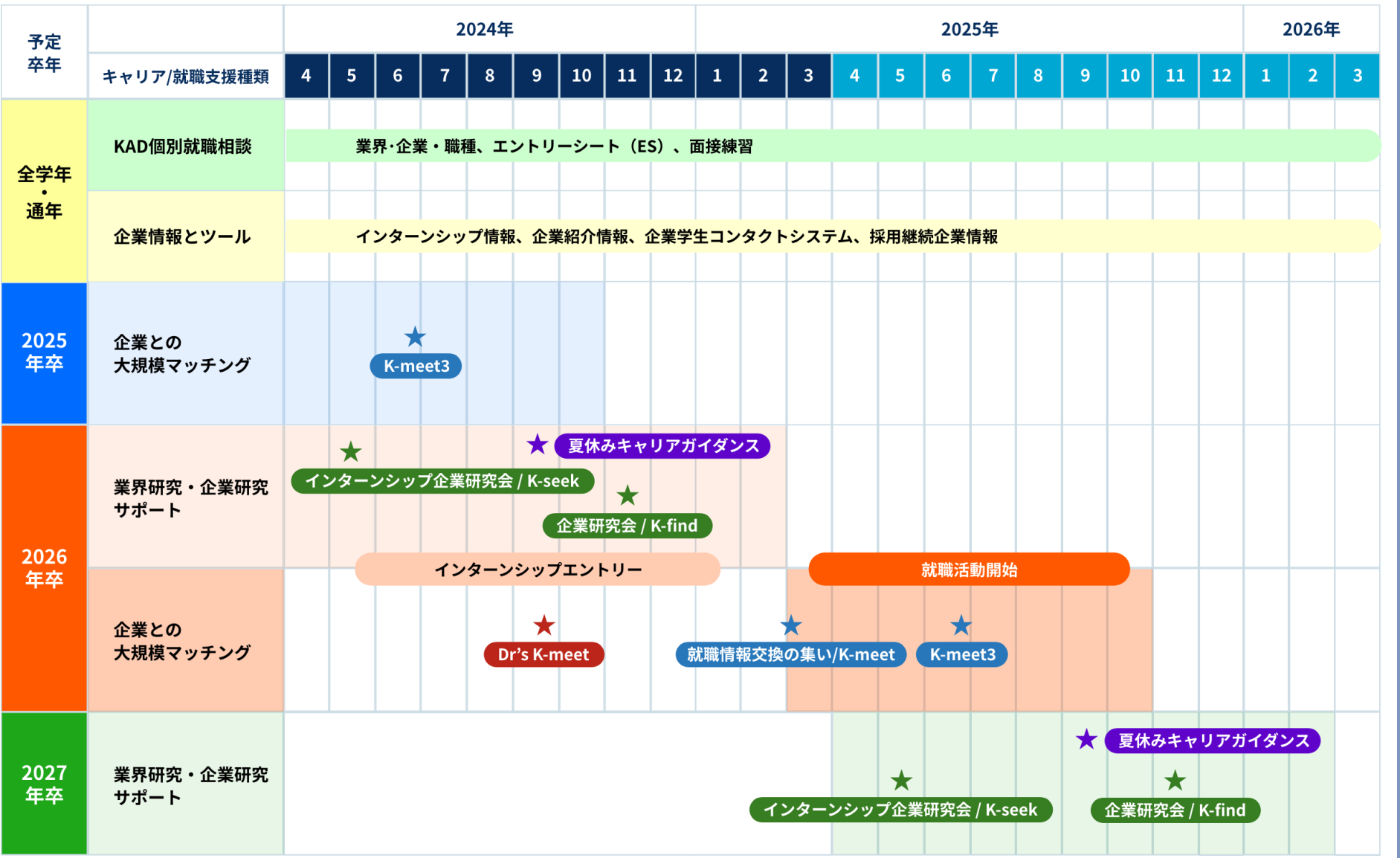
■主な就職支援ツール（在学生向けHP）

- 企業紹介情報：「Dr's K-meet」等イベントへの参加企業の紹介ページを在学生に公開
- 企業情報掲示板：独自に調査した企業の採用活動情報を掲載。就職活動中の学生に情報提供
- 企業コンタクトシステム：企業とのコンタクトを希望する学生と、企業の採用窓口を、蔵前工業会が仲介するシステム
- 学生コンタクトシステム：匿名の学生情報（所属や研究内容、自己アピール）から、企業が興味のある学生を蔵前が仲介して通知するシステム

■大学との連携

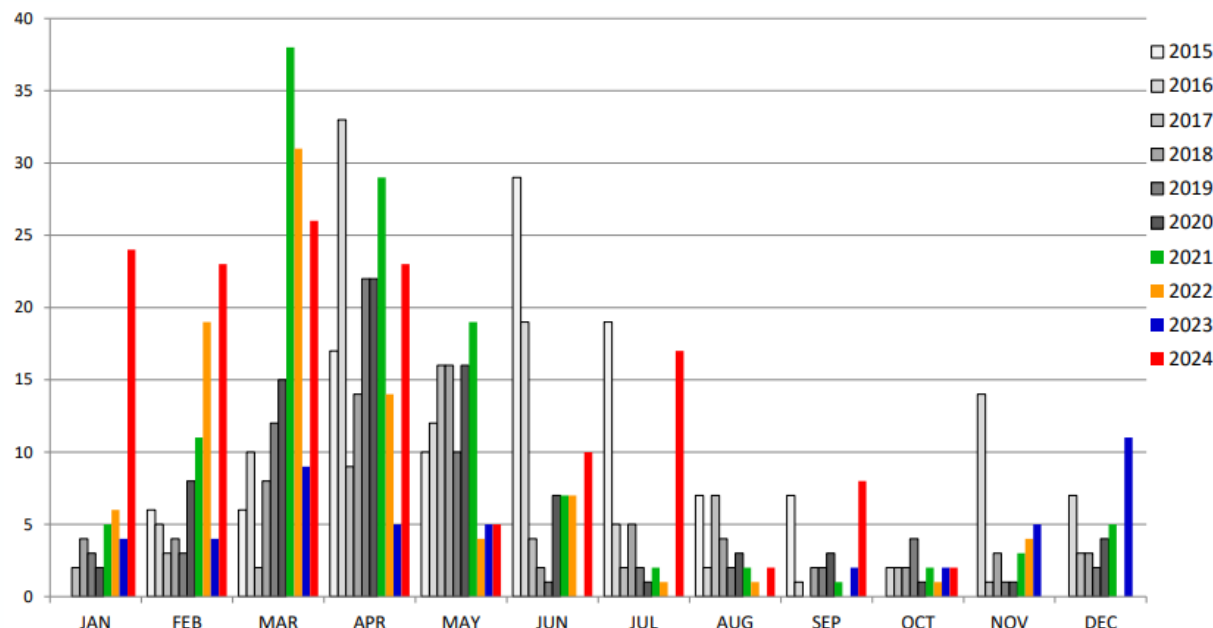
東京科学大学 学生支援センター未来人材育成支援室（キャリア相談窓口）とリンクを相互共有し、在学生を対象とする個別就職相談の役割分担を図っている。

蔵前工業会（理工学系同窓会）によるキャリア支援



蔵前工業会「くらまえアドバイザー」による キャリア相談

- 東工大OBOGの約30名で構成。月曜～土曜に個別相談を実施（原則2名のアドバイザーで対応）
- 面接練習・研究説明・ES内容・インターンシップ応募・志望先企業の相談などを、企業経験者の立場（キャリアアドバイザーとの補完）からアドバイス
- 面談学生の博士の割合
全学生の内6.5%（企業・大学等への就職する学生の割合とほぼ同じ）
- 2015年～2024年（9月まで）相談件数推移



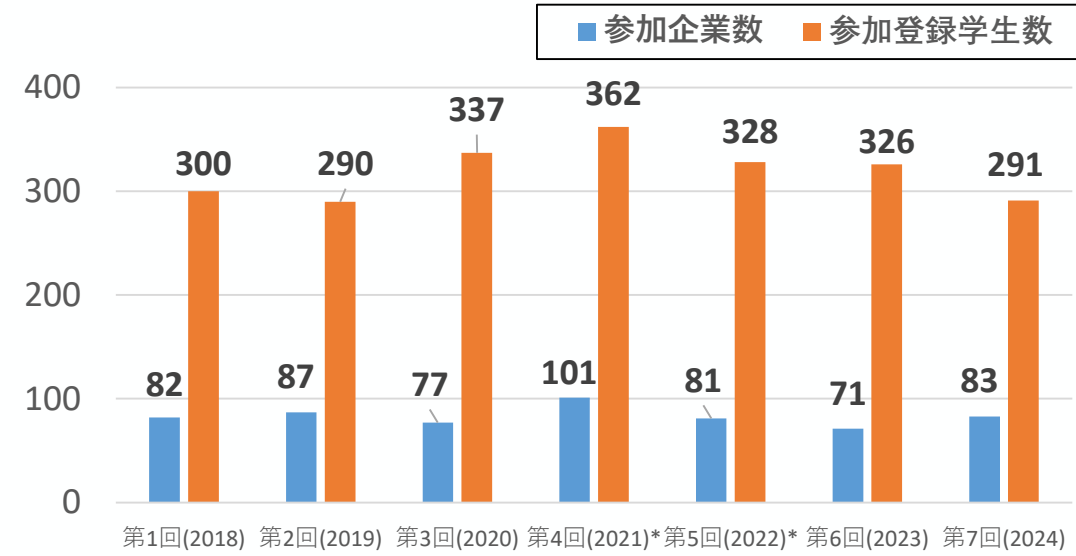
- 2023年9月から直接蔵前工業会で受付開始（同窓会員限定）により件数増加。
- 就職活動の早期化の影響で、12月頃から相談が増加
- インターンシップ準備のため5～6月も相談が増加傾向

博士後期課程学生のための蔵前就職情報交換の集い (Dr's K-meet)

2024年度（第7回）開催実績

- 開催日時：9月25日(水)・9月26日(木) 14：00～18:00
- 主催：主催：一般社団法人蔵前工業会
- 共催：東京工業大学学生支援センター
東京工業大学アントレプレナーシップ教育機構
- 開催方式：対面方式（企業ブースでの学生との情報交換）
- 学生事前登録者数：東工大233人、他大学58人、合計291人
（留学生比率51.2%）
- 学生実参加者数：1日目142人、2日目99人

過去の開催実績



(※ 2020年、2021年、2022年はオンライン開催)

Dr's K-meet
9.25[水]・26[木]
両日とも 14:00～18:00
東工大蔵前会館（TTF）

参加企業 **83社** 企業ブースでの対面情報交換
対象 博士後期課程学生及びボスドク限定
出会いと発見の対面イベント、是非ご参加ください！

Dr's K-meetとは
“日本最大規模の博士人材向けキャリアフェア”
蔵前工業会（東工大全学同窓会）と東工大が共催し、東工大が連携協定を結んでいる他大学の博士課程の学生も参加します。

事前登録期間 9月24日 火
参加申込・企業リストなど詳細は蔵前工業会 Dr's K-meetページへ



(※開催時点の東京工業大学で表記、出所：蔵前工業会)

Dr's K-meet 博士後期課程学生ポスターセッション (企業に対する自己アピール)

■趣旨・概要

Dr's K-meetの一部として、自ら手を挙げた博士後期課程学生により実施

(各日約2時間、日本語、冒頭に学生による「1分間自己紹介」あり)

➤ 学生自身の自己アピール

これまで取り組んできた研究や経験を、将来産業界でどのように活かして活躍いきたいか、自分自身をアピール。 ※学会の研究成果発表とは目的が違うことを学生に確実に理解させる。

➤ 企業の視点や考え方を理解

企業の開発・研究担当者や人事担当者との意見交換を通じて、自身の研究内容や経験に対して企業がどのような興味・視点・考え方を持つかを理解し、今後のキャリアを考えるうえでの参考とする。

➤ このポスターセッションをきっかけとしてインターンシップや就職活動に繋げる学生が多い。

■参加人数（留学生内数） ※2020～2022年度はオンライン開催

2019年度：25名（5名） 2020年度：23名（10名） 2021年度：21名（7名）

2022年度：13名（1名） 2023年度：28名（6名） 2024年度：22名（6名）

■参加学生の感想

- 自身の研究と関係なさそうに思っていた企業にも来ていただき、こういった需要があるのかを聞くことができた。
- 自分の専攻分野とは異なる企業の方により興味を持っていただいた。
- 自分の研究がどのように企業に貢献できるかを詳しく説明してもらい理解できた。
- 自身の研究を面白いと言ってもらい、「こういった考え方・アプローチをするとよい」といった話を教えてもらった。
- 同じ業務内容でも企業によって視点が違う点が意外だった。



- 2008年度 「プロダクティブリーダー養成機構（PLIP）」 設立
- 文部科学省事業（2008年度～2012年度）
 - 博士後期課程学生・ポスドクのうち毎年数十名対象に、企業と協力して講義、インターンシップ等を組み合わせた人材育成を実施。

2014年度 全博士後期課程学生を対象にキャリア科目履修を必修化（4単位）。
PLIPの後継組織「イノベーション人材養成機構(IIDP)」が担当。
（2016年度には、修士課程学生もキャリア科目履修が必修化（2単位））
キャリア教育は、専門教育、教養教育と共に東京工業大学の大学院教育の3本柱の一つとなる。



2024年度 キャリア教育をアントレプレナーシップ教育として発展。博士後期課程4単位、修士課程2単位で必修化。学士課程に対する教育も開始。IIDPは廃止され、アントレプレナーシップ教育機構設立。

■卒業後、産業界／アカデミアで活躍するために必要な「知識」「スキル」を教育するとともに、社会での活躍が実感できる「ロールモデル」を提供する科目を開講。

就職活動やその後のキャリア構築で直ちに役立つ知識

組織におけるお金の流れ

法律

倫理

起業

財務諸表

業界・職種研究

標準（規格）

知的財産権

安全保障貿易管理

SDGs

就職活動やその後のキャリア構築で直ちに役立つスキル

就職活動

自己理解・自己PR

コミュニケーション

アジェンダ設定力

クリティカルシンキング

ビジネスマナー

文書作成法

アントレプレナーシップ

リーダーシップ

大学

サービス企業

製造業

研究機関

大企業

外資系企業

ベンチャー企業

就職活動

リーダーシップ

転職

起業

スキルアップ

自己啓発

社会で活躍する方々の実体験に基づくロールモデル

■博士後期課程学生は、キャリア科目又は、博士後期課程のコース開講科目のうちキャリア科目と見做されると認定された科目を修了までに4単位履修することが必修。

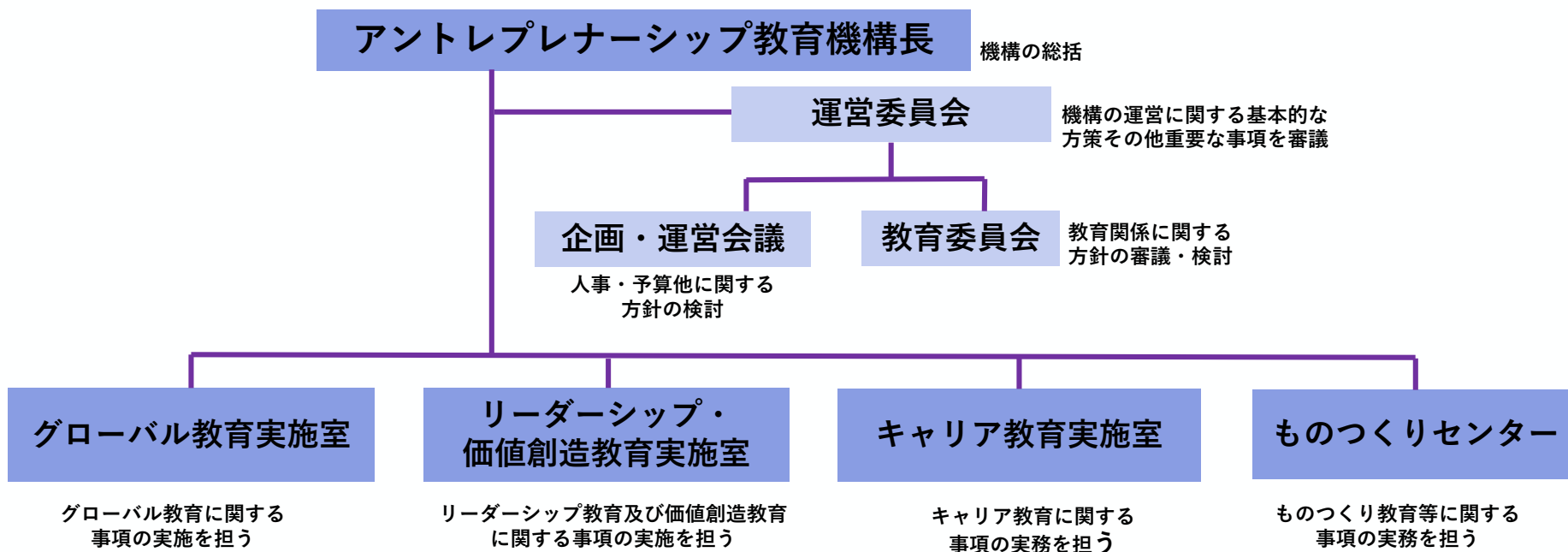
GA0D (基礎)	自らのキャリアを明確にデザインし、アカデミア・産業界の構成員として活躍するための知識・スキル、社会的責任、倫理等を包括的に理解して、イノベーション実現に貢献できる。	博士キャリアデザイン178			赤字は年間履修者数
		Doctoral Strategy for Balancing Career, Personality and Lifestyle194			
		Doctoral Developing Career Adaptability for Global Competitiveness83			
博士後期課程のコース開講科目のうちキャリア科目と見做されると認定された科目					
GA1D (発展)	自らがデザインしたキャリアを実現するために必要な高度なリーダーシップ、アントレプレナーシップ、知識・スキル、社会的責任、倫理等を身に着けることで、イノベーションの実現を主導できる。	【知識系】	【ロールモデル・研修系】	【スキル系】	
		博士社会・ビジネスのルールと倫理102	Doctoral R&D and Business Strategies of Global Companies158	博士アカデミックリテラシー56	
		博士科学者と技術者の倫理33	博士企業ビジネス・研究開発戦略実践研修（PBL）10	博士アカデミックティーチング4	
		博士企業経営とビジネスモデルケーススタディ47	博士アカデミック海外研修 博士アカデミック国内研修7	博士アカデミックプレゼン33	
			博士企業研究インターンシップ1	Doctoral Technical Writing166	
				Doctoral Technical Discussion134	

- キャリア科目をもっと早い段階で履修すればよかった。キャリアプランはこれからの人生でし続けるべきものであることを改めて思った。
- 本授業を受講して、今後の自分がどのようにキャリアアップしていきたいのか考える機会となった。不足している事項や、新しい発見もあり、有意義な授業であった。
- 講義前は大学での知的財産の重要性を全く感じていなかった。また、大学発のベンチャーについて、名前は聞いたことがあったが、ベンチャー発足までの流れやビジネスモデル等の具体的な話は聞いたことがなかった。
- 規則や倫理教育については、正直確認するのが面倒くさいと感じることが多々あった。しかし本講義で、規則を確認することの大切さを改めて認識した。
- 私はお金を儲けるために研究を志している訳ではないが、研究をするためには研究費を獲得する必要がある、結局は社会におけるお金の動きの話に直結する。したがって、社会におけるお金と経済の仕組みについて勉強することは研究者を志すうえでとても大事であるということがよくわかった。
- 企業の研究開発は結局事業の継続が必須であるという考えが身に付いた。事業が続かないと研究開発が打ち切りになるということが印象的だった。研究開発にいきなり携わるよりも事業部門を経験しておくことが社会での技術者として価値のある経験になると思う。そこから、自分がやりたいことだけではなく、自分が携わるエコシステム全体を見て、やりたいことを続けるために必要なこともやるという意識を持つことが重要だ。

- 2024年度からキャリア科目をアントレプレナーシップ科目として発展。博士後期課程4単位、修士課程2単位で必修化。学士課程に対する教育も開始。アントレプレナーシップ教育機構設立。
- アントレプレナーシップ教育は、起業のみを対象とした教育ではなく、卒業後に企業やアカデミアで自分が大学で培った知識や経験を活かしてどのように活躍していくのかを主体的に考え、未来社会の創造を主導する人材を育成することを目指す。
- 具体的には、将来のキャリア構築に役立つ実践的な知識やスキルを修得したり、国際性を高め、リーダーシップや価値創造力を涵養する教育を実施。



- アントレプレナーシップ教育を全学的に展開し、起業に限らず、企業、大学、政府機関、国際機関、NGO、NPO等の多様な組織で、グローバルな社会課題を解決することのできる人材を育成。

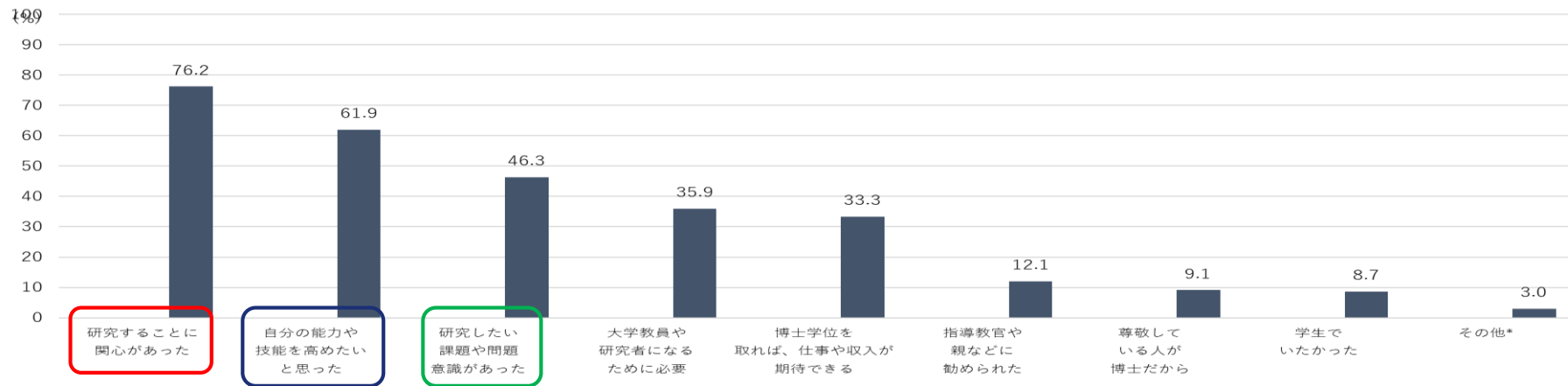


【参考】博士後期課程修了者の就職状況の調査(2024年3月)

(旧東工大) 博士の進路選択

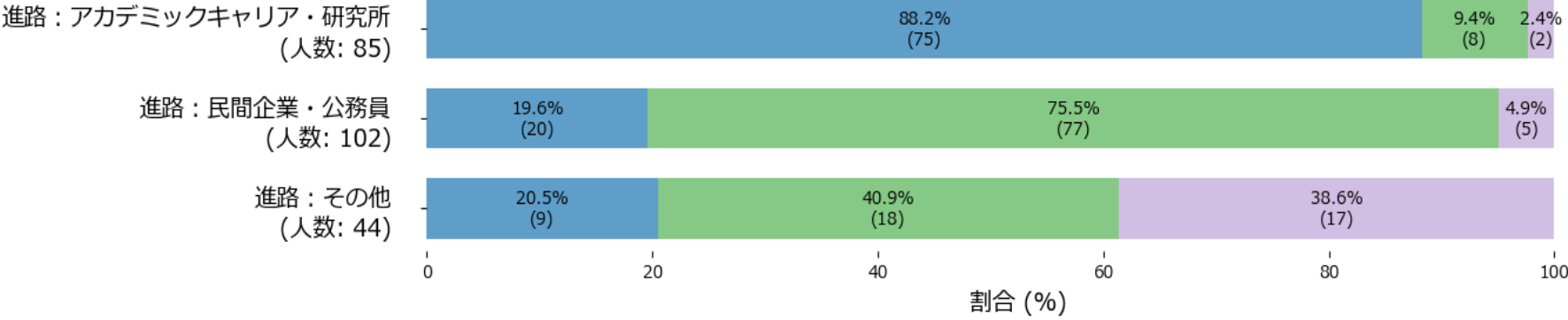
- ・ 調査目的：博士後期課程学生の就職活動の実態を明らかにすることにより、キャリア支援と博士後期課程進学者増加の一助とする。
- ・ 対象学生：2024年3月修了予定者（D3以降） 回答数：262名

博士後期課程に進学した理由で、当てはまるものすべてを選択して下さい（複数選択可）



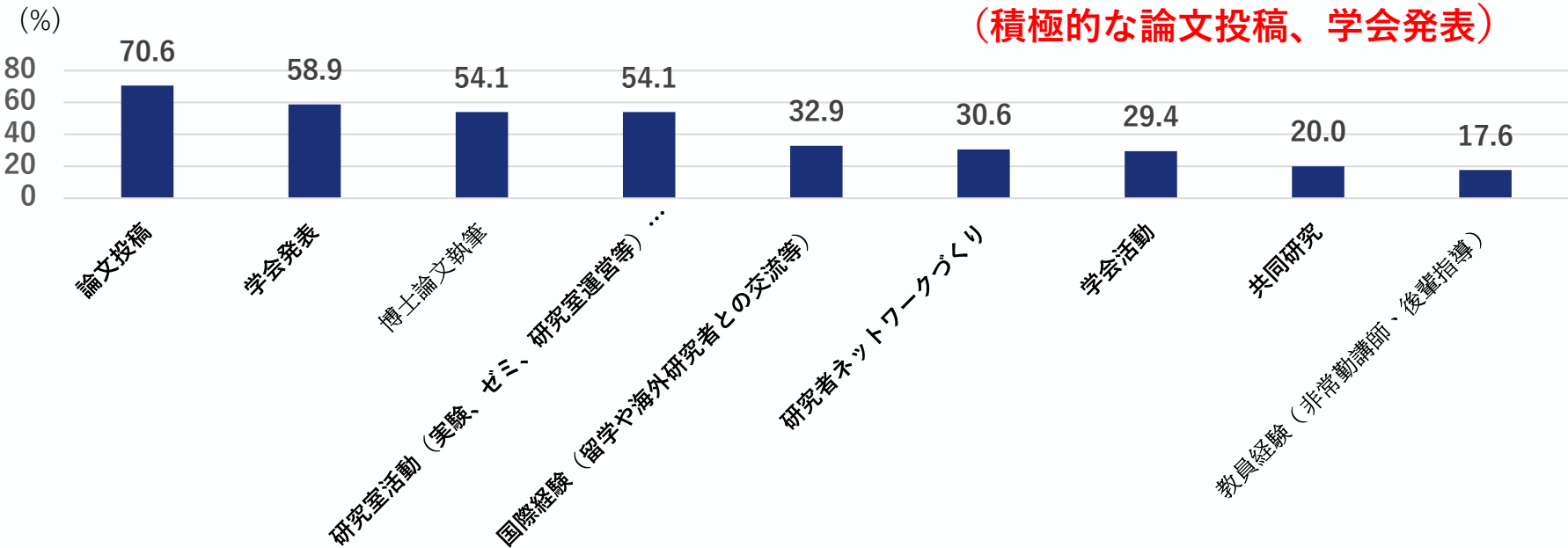
博士後期課程進学時と修了時の進路の違い

（就職が決まった人は進学時に考えていた進路に決まった人が8割前後）

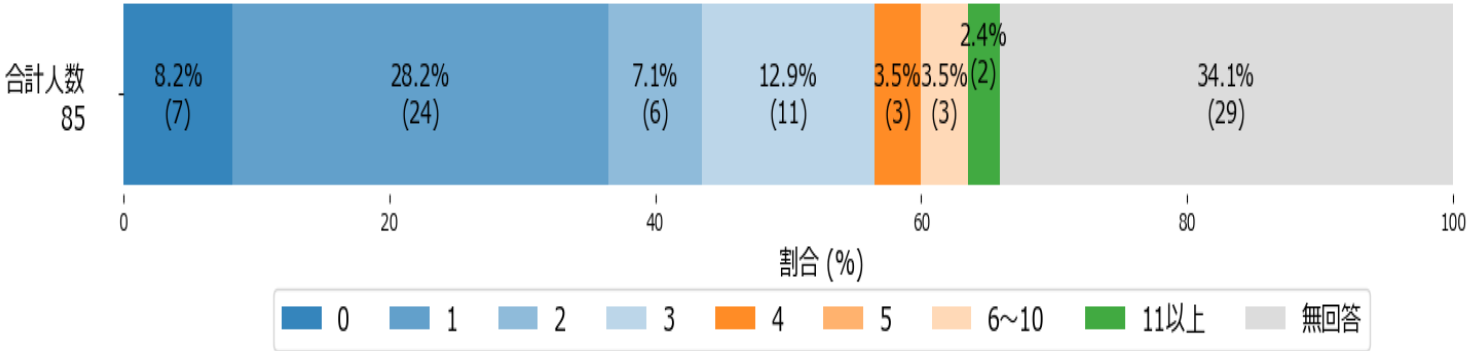


＜ アカデミアへの就職者 ＞

* アカデミックキャリアを実現するために、在学中、特にどのようなことに力を入れて取り組んできたか？
(複数選択可)

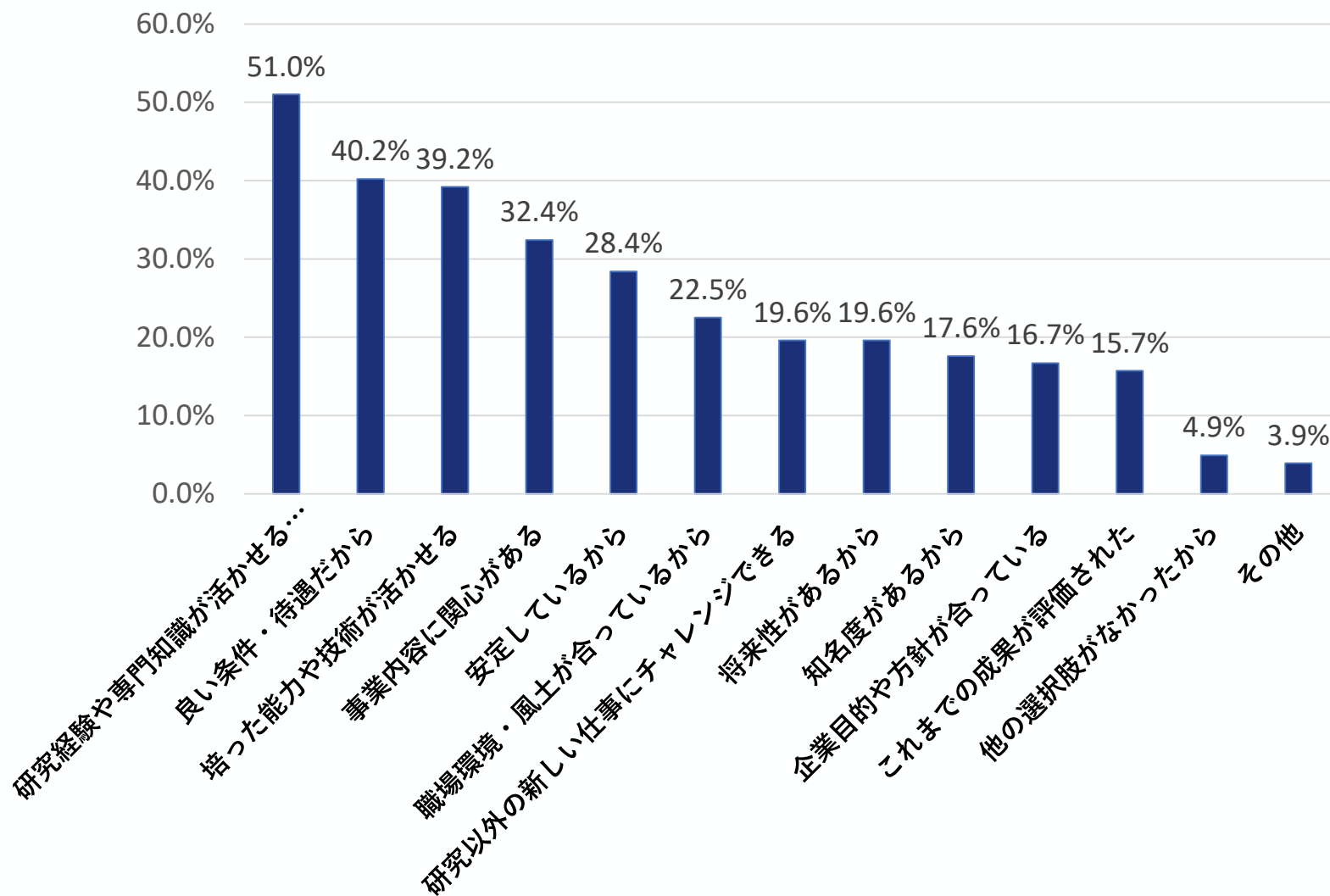


* 応募数



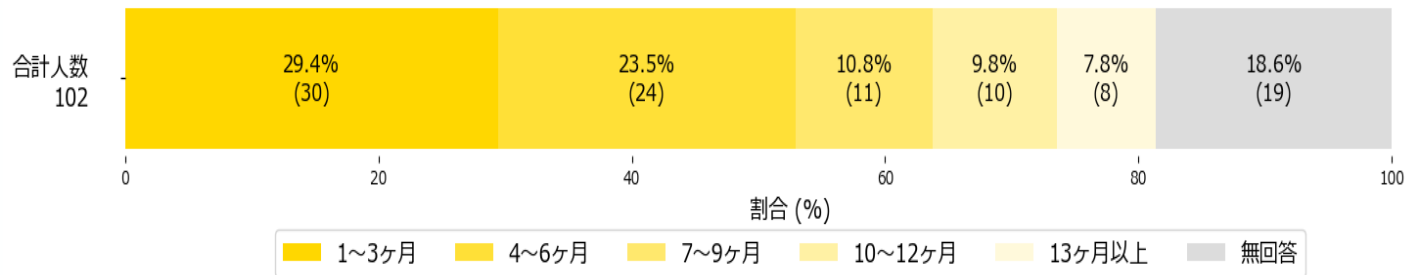
＜民間企業・公務員への就職者＞

* 就職を決めた企業を選んだ理由（複数選択可）

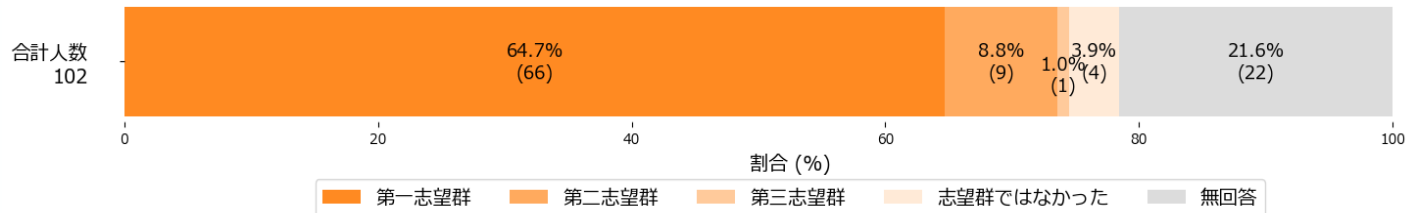


< 民間企業・公務員への就職者（つづき） >

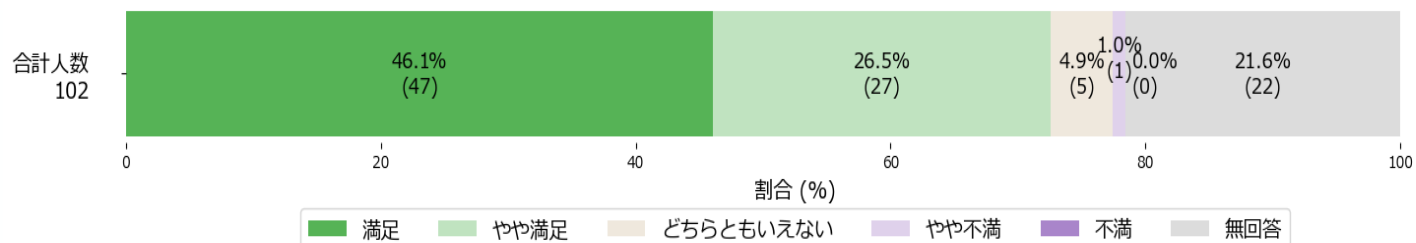
*就職活動をした期間 (3か月以内が約3割 6か月以内で約5割)



*就職先の志望度 (第一志望群が約65%)



*就職の満足度 (満足・やや満足が約73%)



*博士後期課程在学中に身についた能力の中で、今後のキャリアの中で強みになると思うもの（3つまで選択可）

